

13. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M6281)

文献

Aoyama N, Fujii O, Yamamoto T. Efficacy of Parietal Acupoint Therapy: scalp acupuncture for neck/shoulder stiffness with related mood disturbance. *Medical Acupuncture* 2017; 26(9): 383-389. PMID: 29279733

1. 目的

頰肩こりとそれに関連する気分障害に対する Parietal Acupoint Therapy (PAPT)の効果を評価。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

記載なし

4. 参加者

慢性的な頰肩こりと、頭痛、めまい、目の問題などによって心理的なストレスを抱えている 21~59 歳の事務職女性 46 名。

5. 介入

Arm 1: PAPT 群 26 名 (0.25×30 mm 鍼 5~7 本を PC3~PC6 領域の触診ポイントに 10~15mm 刺入)

Arm 2: 対照群 20 名 (同じ要領で PL2~PL5 領域に刺入)

6. 主な評価項目

直前・直後の Profile of Mood States Second Edition (POMS 2) および唾液 α アミラーゼ (sAA) レベル。直前・直後・3 日後・7 日後の痛みとこりに関する Visual Analogue Scale (VAS)。

7. 主な結果

sAA レベルは、両群とも有意な変化は認めなかった。POMS 2 は、PAPT 群ではネガティブ気分を示す 4 項目が有意に改善したが、対照群ではいずれも有意な変化が見られなかった。POMS 2 の総合感情障害指標 (TMD) についても、PAPT 群では有意な改善が見られたが ($22.46 \pm 15.51 \rightarrow 8.46 \pm 11.99$, $P < 0.001$)、対照群では有意差が認められなかった ($21.65 \pm 18.81 \rightarrow 19.10 \pm 19.76$)。VAS は、PAPT 群においてのみ直後、3 日後、7 日後ともに直前よりも有意に低値 (改善) を保っていた。

8. 結論・意義

PC 領域へ PAPT は頰肩こりとそれに関連する気分障害を改善させる。PAPT は他の頭鍼療法と同様に効果的である可能性が示唆される。

9. 鍼灸医学的言及

他のタイプのマイクロシステム鍼灸 (microsystems acupuncture) と同様に、PAPT は患者の訴える痛みやこりに対応した領域のポイントを用いることによって、症状を即座に効果的に緩和することができる。

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

山元式新頭鍼療法 (YNSA) から派生した PAPT の、頰椎に対応する頭頂部 PC 領域への刺鍼が頰肩部愁訴に対して有効であることを、腰椎に対応する PL 領域への刺鍼と比較することによって検証した RCT である。被験者の募集方法と症状深刻度、ランダム割付の手法、患者への説明内容、有害事象の有無、群間比較した場合の有意差などの記載がないため、刺鍼領域の特異性の存在が確定的かどうか判断し難い。しかし、複雑に絡み合う鍼灸治療の効果に関わる要因を探るためには、このような一条件のみ変えて比較する RCT の実施が増えるべきであり、歓迎すべきことである。

12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.2